



令和 6 年度
(2024)

大学院 入学試験要項

【9月入学】

工学研究科 博士課程後期

《一般入学試験》

《社会人入学試験》

《外国人留学生入学試験》

福 岡 大 学

工 学 研 究 科

人材養成及び教育研究上の目的

工学研究科は、高度な専門知識の実践的活用により科学技術分野の発展に寄与するとの教育理念の下に人材育成を行う。

博士課程後期では、修士課程・前期課程の6専攻を2専攻に集約し、さらに時代の要請にタイムリーに対応できるよう、社会科学、自然科学と工学の分野連携による学際プログラムを設置して、今日の社会が抱える技術的な諸問題に対し、専門的かつ先駆的の考究を加え、新たな解決法を創造する。また、各分野の学会等を通じて新たな学術的知見を提供することによってグローバルな社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

エネルギー・環境システム工学専攻においては、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究などを通して、高度な研究者、技術者を育成することを目的とする。

情報・制御システム工学専攻においては、情報処理、情報伝送、システム制御及び機能デバイスの領域において、最先端の研究・開発を行うことにより自立的に問題を解決する能力を有し、情報社会や基礎産業の変化に対応できる広い視野と思考力を備え、高度な専門性をもって国際社会に貢献できる技術者及び研究者を育成することを目的とする。

教 育 目 標

建学の精神に基づく全人教育を理想とし、良心に基づいた社会的責任感を有し、時代に即応した判断力と、高度な専門知識を持ち、国際的視野に立って社会に羽ばたく人材の育成を目指す。また、豊かな創造性と実務的な応用力を育成するために、深い専門知識に基づく、十分なコミュニケーション能力を養成するとともに、調和のとれた人格の発達を促すなどを教育目標とする。

エネルギー・環境システム工学専攻では、エネルギー・環境分野において深い専門知識と探求創造能力を身につけ、地域ならびに国際社会に貢献でき、また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者の育成を目指す。そのため、熱エネルギー、電気エネルギー、都市環境、環境材料、環境プロセスおよび資源循環システムの6つの専修毎の最先端の高度な技術レベルを自ら理解できる能力の養成を教育目標とする。

情報・制御システム工学専攻では、情報処理、情報伝送、システム制御、機能デバイスの専門分野において、国際的な社会発展を先導する人材としての高度な専門知識と研究能力を有するために独創的かつ発展的な思考力、創出力を養う実践教育を行うことを目的とする。そのため、本専攻は、最先端の研究・開発を通して専門分野に精通した豊富な知識と最新の科学技術に対応できる能力を育成する教育により、情報社会、産業基盤の発展に貢献できる人材を輩出することを目標とする。

アドミッション・ポリシー

工学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

【博士課程後期】

（求める学生像）

専門分野に関心を持ち、主体的な研究活動に意欲を持つ人を対象とする。

（入学者選抜の在り方）

一般、社会人、外国人留学生入試があり、英語、小論文、専門試験、口頭試問を実施して研究歴や研究計画を確認し、将来性のある有望な人材が選抜される。

【エネルギー・環境システム工学専攻】

工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

（求める学生像）

本専攻では、人材養成・教育研究上の目的を達成するために、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適した化学プロセスや装置の研究に興味・関心を持っている者、またそれらの深い専門知識と探求創造能力を身につけることに強い意欲を持っている者、さらにそれらを通じて特にエネルギー・環境分野において地域ならびに国際社会に貢献ができ、また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者を目指す者の入学を求めている。

（入学者選抜の在り方）

多くの学生や社会人および外国人留学生に進学の門戸を広げるため、次の試験を用意する。

一般入試

- ・英語、専門試験、面接を実施して研究歴や研究計画を確認する。福岡大学大学院工学研究科博士課程前期修了者は専門試験を免除する。

社会人入試

- ・小論文、面接（小論文及び研究計画書による口頭試問を行う）を実施する。

外国人留学生入学試験

- ・一般入試と同様である。ただし、最終学校を修了・退学した後、入学時に日本国内での社会人経験3年以上の者は社会人入学と同じである。
- ・日本語コミュニケーション・英語コミュニケーションについては、語学検定試験のスコアについて評価する。

【情報・制御システム工学専攻】

工学研究科情報・制御システム工学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

（求める学生像）

専門分野の十分な基礎力、独創的な発想力、学問的な探究心などを有し、自立して積極的に研究活動に取り組む人

〔社会人〕

専門分野の十分な基礎力、独創的な発想力、学問的な探究心などを有し、社会での実務経験を通して抱いた問題意識を踏まえ、自立して積極的に研究活動に取り組む人

〔留学生〕

専門分野の十分な基礎力、独創的な発想力、学問的な探究心などを有し、グローバルに活躍する意志を持ち、自立して積極的に研究活動に取り組む人

（入学者選抜の在り方）

一般入試

- ・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力を有しているかを英語、専門科目、面接によって判定する。
- ・情報・制御システム工学分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを面接によって判定する。

社会人入試

- ・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力、ならびに同分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを小論文と面接によって判定する。

外国人留学生入学試験

- ・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力を有しているかを英語、専門科目、面接によって判定する。
- ・情報・制御システム工学分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを面接によって判定する。
- ・日本語および英語コミュニケーション力については、語学検定試験のスコア、ならびに面接によって評価する。

目 次

博士課程後期《一般入学試験》《社会人入学試験》

| | | |
|----|----------------------------------|----|
| 1 | 募集人員 | 2 |
| 2 | 出願資格 | 2 |
| 3 | 願書受付期間・入学試験日 | 2 |
| 4 | 願書受付時間・場所 | 3 |
| 5 | 出願手続 | 3 |
| | (1) 提出書類その他 | 3 |
| | (2) 入学検定料の納入方法 | 3 |
| | (3) 出願上の注意 | 3 |
| 6 | 受験票 | 4 |
| 7 | 試験場・試験会場 | 4 |
| 8 | 試験科目・試験時間 | 5 |
| 9 | 合格発表 | 5 |
| 10 | 入学手続 | 5 |
| | (1) 入学に要する経費等 | 6 |
| | (2) 入学辞退について | 6 |
| 11 | 各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要 | 7 |
| | ●エネルギー・環境システム工学専攻 | 7 |
| | ●情報・制御システム工学専攻 | 10 |
| | 学際プログラムについて | 12 |
| 12 | その他 | 14 |
| | ◇ 既修得単位認定制度 | 14 |
| | ◇ 奨学金制度 | 14 |

博士課程後期《外国人留学生入学試験》

| | | |
|----|-----------------------------|----|
| 1 | 募集人員 | 16 |
| 2 | 出願資格 | 16 |
| 3 | 願書受付期間・入学試験日 | 16 |
| 4 | 願書(第1次選考書類)受付時間・場所 | 17 |
| 5 | 出願手続 | 17 |
| | (1) 提出書類その他 | 17 |
| | (2) 第1次選考(書類審査及び出願資格審査)について | 21 |
| | (3) 第2次選考検定料(入学検定料)の納入方法 | 21 |
| | (4) 出願上の注意 | 21 |
| 6 | 受験票及び受験許可書 | 21 |
| 7 | 試験場・試験会場 | 21 |
| 8 | 試験科目・試験時間 | 22 |
| 9 | 合格発表 | 22 |
| 10 | 入学手続 | 22 |

(巻末)

- ◇ 個人情報の取扱いについて
- ◇ 福岡大学大学院長期履修制度について

博 士 課 程 後 期

《一般入学試験・社会人入学試験》

博士課程後期

《一般入学試験・社会人入学試験》

留学生（本学を卒業した者及び卒業見込みの者を含む）は16頁（外国人留学生入学試験）を参照してください。

1 募集人員

| 研究科名 | 専攻名 | 課程名 | 標準修業年限 | 入学定員 |
|-------|------------------|--------|--------|------|
| 工学研究科 | エネルギー・環境システム工学専攻 | 博士課程後期 | 3年 | 4名 |
| | 情報・制御システム工学専攻 | | | 4名 |

※入学定員には、専攻で実施するすべての入学試験の人員を含みます。

2 出願資格

| 《一般入学試験》 | 《社会人入学試験》 |
|---|---|
| <p>次のいずれかの条件に該当する者</p> <p>① 修士の学位を有する者又は学校教育法第104条第1項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者及び令和6年3月までに取得見込みの者</p> <p>② 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者</p> <p>④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者</p> <p>⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者</p> <p>⑥ 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者</p> <p>⑦ 文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑧ 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したものと及び令和6年3月までに達するもの^(注)</p> | <p>次のいずれかの条件に該当する者で、最終学校を卒業・修了・退学した後、入学時に社会人経験3年以上の者</p> <p>① 修士の学位を有する者又は学校教育法第104条第1項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者（令和3年3月以前に学位を授与された者）</p> <p>② 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和3年3月以前に学位を授与された者）</p> <p>③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和3年3月以前に学位を授与された者）</p> <p>④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和3年3月以前に学位を授与された者）</p> <p>⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（令和3年3月以前に学位を授与された者）</p> <p>⑥ 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者</p> <p>⑦ 文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑧ 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、27歳に達したものと及び令和6年3月までに達するもの^(注)</p> |

(注)：出願資格⑧による出願を希望する者は、出願資格審査を行います。4頁【出願資格審査について】を参照してください。

3 願書受付期間・入学試験日

| 募集区分 | 願書受付期間 | 入学試験日 |
|--------|-----------------------|----------------|
| 9月入学試験 | 令和6年6月17日(月)～6月19日(水) | 令和6年7月6日(土) 予定 |

(注)：出願資格⑧による出願を希望する者は、書類提出期間が異なります。4頁【出願資格審査について】を参照してください。

4 願書受付時間・場所

① 受付時間：午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

② 受付場所・問合せ先

福岡大学 大学院事務課（福岡大学 中央図書館6階）

福岡市城南区七隈八丁目19番1号（〒814-0180）

☎（092）871-6631 内線2913～2916

※郵送の場合は書留郵便とし、受付最終日までに必着とします。

封筒の表には、「工学研究科出願書類在中」と朱書きしてください。

5 出願手続

(1) 提出書類その他

| 《一般入学試験》 | 《社会人入学試験》 |
|---|---|
| <p>① 志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙）</p> <p>② 出身大学院の修了証明書又は修了見込証明書</p> <p>③ 出身大学院の成績証明書</p> <p>④ 入学検定料領収書（大学提出） （本学所定の台紙に貼り付けられていること）</p> <p>⑤ 「住所シート」（本学所定用紙）</p> | <p>① 志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙） ※「志願票」裏面の履歴書の記入について ・職歴及び実務経験を記入してください。 ・業績（研究論文、学会発表、特許等）がある者は記入してください。 ・専門性に係る資格を保有している者は記入してください。</p> <p>② 出身大学院の修了証明書</p> <p>③～⑤ 左記の③④⑤に同じ</p> <p>⑥ 研究計画書（本学所定用紙なし） ※400字以上、A4縦長・横書き （上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください）</p> <p>⑦ 資格取得者は、その証明書の写しを提出してください。</p> |
| <p>注1：2頁の出願資格②・③・⑤～⑦に該当する者で、上記書類のうち提出不可能なものがある場合は、事前に大学院事務課へ相談してください。</p> <p>注2：出願資格によっては、上記以外の書類の提出をお願いすることがあります。</p> <p>注3：改姓された者（証明書使用の姓と現在の姓が異なる者）は、戸籍抄本等、改姓を証明する書類（1年以内に発行されたもの）を添付してください。</p> | |

(2) 入学検定料の納入方法

| | |
|-------|---------|
| 入学検定料 | 32,000円 |
|-------|---------|

入学検定料は、最寄の金融機関（郵便局・ゆうちょ銀行を除く）から本学所定の「振込用紙」に記載された指定金融機関宛に振り込んでください。

なお、振込みの際に受取った「入学検定料領収書（大学提出）」を、指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って、他の出願書類とともに提出してください。

（注）自動振込機（ATM）から振込みを行う場合は、氏名の前に「振込用紙」の「整理番号」を必ずご入力ください。振込みを証明できるもの（利用明細票の写し）を指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って提出してください。

（注）インターネットバンキングによる振込みは受付できません。

(3) 出願上の注意

① 該当する出願資格に記載された条件の内容を必ず確認してください。

- ② 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。
- ③ 志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は、各専攻の入学生を募集する専修部門（7～11頁参照）の中から1部門を選択し、その名称を記入してください。
「指導教員」欄には、志望専修部門の指導教員1名の氏名を記入してください。
- ④ 一度払い込まれた入学検定料及び提出した書類（論文含む）の返還請求には応じません。
- ⑤ 健康の状況について
疾病・障がい等により、受験時および修学上配慮を必要とされる方は、出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書を添えてください。障害者手帳をお持ちの方は、そのコピーも添えてください。）

【出願資格審査について】

◆出願資格⑧の出願条件

資格：大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生、その他の教育施設の修了者であること。

◇書類提出期間：令和6年5月13日（月）～5月15日（水）
午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

◇提出書類：① 志願票（本学所定用紙）

※「志願票」裏面の履歴書の記入について

- ・職歴及び実務経験を詳しく記入してください。
- ・業績（研究論文、学会発表、特許等）がある者は記入し、その現物の写しも提出してください。
- ・専門性に係る資格を保有している者は記入し、その証明書の写しも提出してください。

② 最終卒業（修了）学校の卒業証明書及び成績証明書

③ 志望動機と目的

※400字以上、A4縦長・横書き（本学所定用紙なし）

※上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください。

④ 研究計画書（社会人志願者のみ）

※400字以上、A4縦長・横書き（本学所定用紙なし）

※上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください。

◇審査結果通知：審査の結果は本人あて通知します。なお、受験が認められた者は、指定された期日までに、入学検定料を納入し、下記の書類を提出してください。入学検定料の納入が確認された後、受験票を送付します。

① 副票・受験票（本学所定用紙）

② 入学検定料領収書（大学提出）※本学所定の台紙に貼り付けられていること

③ 住所シート（本学所定用紙）

6 受 験 票

※出願手続完了者には、「受験票」を送付します。

※試験日の5日前までに到着しない場合は大学院事務課へ連絡してください。

※「受験票」は入学手続完了まで保管してください。

7 試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目19番1号 福岡大学内

※試験会場は、試験日当日の午前8時30分に中央図書館西側1階入口（大学院エントランス）に掲示します。

※受験者は、午前9時までに試験会場に集合してください。

8 試験科目・試験時間

《一般入学試験》

■全専攻共通

| 時間 | 試験科目 |
|---------------|--|
| 9:00～ | 受験上の注意 |
| 9:15～10:15 | ◆ 英語 |
| 10:30～12:00 | ◆ 専門科目 [※他大学院出身者のみ実施] 専修部門の科目について筆記試験を行う。 |
| (注) 12:40～ | ◆ 面接 研究計画に関する口頭試問を行う。 <hr/> <small>(注) 面接の開始時間は、受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。</small> |

《社会人入学試験》

■全専攻共通

| 時間 | 試験科目 |
|---------------|---|
| 9:00～ | 受験上の注意 |
| 9:15～10:15 | ◆ 小論文 |
| (注) 12:40～ | ◆ 面接 小論文及び研究計画書による口頭試問を行う。 <hr/> <small>(注) 面接の開始時間は、受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。</small> |

9 合格発表

- ① 合格発表日時：令和6年7月23日(火)午前10時
- ② 合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者へ入学手続書類を郵送(簡易書留)します。
不合格者への通知はいたしません。
◆ 掲示場所：大学院事務課前
- ③ 福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」(<https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/>)
に合格者の受験番号を掲載いたします。
- ④ 合否に関する電話による問合せには一切応じません。
- ⑤ 出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

10 入学手続

- ※ 入学手続書類等の詳細は、合格通知とともにお知らせします。
- ※ 入学申込金・授業料その他諸納入金の納入については、6頁の「(1) 入学に要する経費等」の学費等納入金表を参照してください。

(1) 入学に要する経費等

学 費 等 納 入 金 表

(単位：円)

| 区 分 | | 本学学部卒業 | 本学大学院修了 | 他大学卒業・他大学院修了 | 備 考 | |
|------------|----------------|-----------|---------|--------------|----------|-------|
| 入学時 納入金 | 入学申込金(入学金) | 120,000 | 0 | 120,000 | 入学年度のみ納入 | |
| | 第一期分 学費等納入金 | 第一期分授業料 | 280,000 | 280,000 | 280,000 | 毎年度納入 |
| | | 第一期分教育充実費 | 70,000 | 70,000 | 70,000 | |
| | | 委託徴収金 | 3,000 | 3,000 | 18,100 | |
| | | (小計) | 353,000 | 353,000 | 368,100 | |
| 計 | 473,000 | 353,000 | 488,100 | | | |
| 第二期 払込分 | 第二期分 学費等納入金 | 第二期分授業料 | 280,000 | 280,000 | 280,000 | 毎年度納入 |
| | | 第二期分教育充実費 | 70,000 | 70,000 | 70,000 | |
| | 計 | 350,000 | 350,000 | 350,000 | | |
| 初年度納入金 合計 | | 823,000 | 703,000 | 838,100 | | |

◆上記合計金額のうち、「入学申込金」及び「第一期分学費等納入金」として、下記の金額を所定の期日までに納入してください。(納入期限当日の収納日付印まで有効)

| 費 目 | 本学学部卒業 | 本学大学院修了 | 他大学卒業・他大学院修了 |
|---------------------|--------------------|---------|--------------|
| 入 学 申 込 金 | 120,000 | 0 | 120,000 |
| | ◇納入期限：令和6年8月6日(火) | | |
| 第 一 期 分 学 費 等 納 入 金 | 353,000 | 353,000 | 368,100 |
| | ◇納入期限：令和6年8月22日(木) | | |

※納入期限後はいかなる理由があっても受け付けできません。

※所定の期限までにこれらの手続きを完了してください。

※二年次以降の学費等納入金のうち、「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

(2) 入学辞退について

- ① 合格発表後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出してください。
- ② 入学手続き終了後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出した方に限り、入学申込金(入学金)を除く第一期分学費等納入金を返還いたします。

11 各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要

●エネルギー・環境システム工学専攻

本専攻は、熱エネルギー工学、電気エネルギー工学、都市環境工学、環境材料工学、環境プロセス工学および資源循環システム工学の6専修から構成され、エネルギー問題解決のためのエネルギーの生成・変換・伝達および輸送に関する研究と、環境問題に対処するための環境適合化学システムの構築、廃棄物の処理・再資源化技術、さらに環境悪化を防止あるいは改善する機能性材料の研究などを通じて学際的研究を推進しています。

令和6年度9月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

| 専修部門 | 指導教員 | 研究内容 |
|------------|-----------------|--|
| 熱エネルギー工学 | 教授 工学博士 高尾 幸来 | (1)低GWP冷媒を用いる冷凍空調機器内の伝熱流動特性およびオイルの影響に関する研究 (2)対向ピストンエンジンの高効率化に関する研究 |
| 電気エネルギー工学 | 教授 博士(工学) 篠原 正典 | プラズマ表面相互作用, プラズマを用いたデバイス創製の研究 |
| 都市環境工学 | 教授 博士(工学) 堺 純一 | 建築構造物の弾塑性挙動と構造性能評価法に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 佐藤 研一 | 各種廃棄物の地盤への適用と新しい舗装技術の開発 |
| | 教授 博士(工学) 柴田 久 | 景観や公共施設のデザインに関する研究 |
| | 教授 工学博士 高山 峯夫 | 免制震技術を用いた応答制御構造と各種デバイスの開発 |
| | 教授 博士(工学) 辰巳 浩 | 快適で持続可能な交通・都市システムに関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 村上 哲 | 地盤災害の予測手法の高度化と防止・軽減技術に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 渡辺 浩 | 木質資源の外構材への有効利用と木橋への適用性に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 渡辺 亮一 | 都市内水環境および生態系再生に関する研究 |
| 環境材料工学 | 教授 博士(工学) 森山 茂章 | 高機能で長寿命な人工関節の開発 |
| | 教授 Ph.D. 柳瀬 圭児 | 材料力学に関する実験的および解析的研究 |
| | 教授 博士(工学) 山辺純一郎 | 脱炭素社会実現に向けた部材の強度設計に関する先進的研究 |
| 環境プロセス工学 | 教授 博士(理学) 久保田 純 | エネルギー技術に関する触媒開発と、その表面の機能に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 新戸 浩幸 | ナノマテリアルの生体・環境影響に関する基礎研究 |
| | 教授 博士(工学) 野田 賢 | システムズアプローチによる環境配慮型プロセスの開発 |
| | 教授 博士(工学) 松隈 洋介 | 二酸化炭素排出削減に関連した化学装置の開発・高性能化 |
| 資源循環システム工学 | 教授 博士(工学) 山本 俊浩 | 環境負荷低減を目指す複合材料の強度評価に関する研究 |

授業科目, 単位, 担当者及び履修方法 (令和5年度現在)

| 研究指導科目 | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|--|
| 部門 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
| 熱エネルギー工学専修 | 熱エネルギー工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 稲毛 真一 教授 工学博士 高尾 幸来 |
| | 熱エネルギー工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 熱エネルギー工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 熱エネルギー工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 熱エネルギー工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 熱エネルギー工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 電気エネルギー工学専修 | 電気エネルギー工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 篠原 正典 教授 博士(工学) 花井 正広 |
| | 電気エネルギー工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 電気エネルギー工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 電気エネルギー工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 電気エネルギー工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 電気エネルギー工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 都市環境工学専修 | 都市環境工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 堺 純一 教授 博士(工学) 佐藤 研一 教授 博士(工学) 柴田 久 教授 工学博士 高山 峯夫 教授 博士(工学) 辰巳 浩 教授 博士(工学) 趙 翔 教授 博士(工学) 村上 哲 教授 博士(工学) 渡辺 浩 教授 博士(工学) 渡辺 亮一 |
| | 都市環境工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 都市環境工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 都市環境工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 都市環境工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 都市環境工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 環境材料工学専修 | 環境材料工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 工学博士 遠藤 正浩 教授 博士(工学) 森山 茂章 教授 Ph.D. 柳瀬 圭児 教授 博士(工学) 山辺純一郎 |
| | 環境材料工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 環境材料工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 環境材料工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 環境材料工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 環境材料工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 環境プロセス工学専修 | 環境プロセス工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(理学) 久保田 純 教授 博士(農学) 重松 幹二 教授 博士(工学) 新戸 浩幸 教授 博士(工学) 野田 賢 教授 博士(工学) 松隈 洋介 |
| | 環境プロセス工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 環境プロセス工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 環境プロセス工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 環境プロセス工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 環境プロセス工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 資源循環システム工学専修 | 資源循環システム工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 添田 政司 教授 博士(薬学) 田中 綾子 教授 博士(工学) 山本 俊浩 |
| | 資源循環システム工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 資源循環システム工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 資源循環システム工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 資源循環システム工学特別演習Ⅰ | 2 | |
| | 資源循環システム工学特別演習Ⅱ | 2 | |
| 部門共通 | インターンシップ | 2 | (各指導教員) |
| 特修科目 | | | |
| 部門 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
| | 応用エネルギー特論 | 2 | 教授 博士(工学) 稲毛 真一 |
| | 熱エネルギー移動現象特論 | 2 | 教授 工学博士 高尾 幸来 |
| | 電力システム工学特論A | 2 | 教授 博士(工学) 篠原 正典 |
| | 電力システム工学特論B | 2 | 教授 工学博士 住吉谷 覚 |
| | 誘電体物性工学特論 | 2 | 教授 博士(工学) 花井 正広 |
| | 都市排水処理工学特論 | 2 | 教授 博士(工学) 渡辺 亮一 |
| | 再生資源利用工学特論 | 2 | (担当者未定) |
| | 建築環境システム特論 | 2 | 教授 博士(工学) 穴井 謙 |
| | 都市計画特論 | 2 | (担当者未定) |
| | 免震・制震設計特論 | 2 | 教授 工学博士 高山 峯夫 |
| | 地盤防災学特論 | 2 | 教授 博士(工学) 村上 哲 |
| | 建築計画特論 | 2 | 教授 博士(工学) 趙 翔 |
| 舗装・地盤環境工学特論 | 2 | 教授 博士(工学) 佐藤 研一 | |

| 部 門 | 授 業 科 目 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|
| | 構 造 工 学 特 論 | 2 | (担当者未定) |
| | 橋 梁 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 渡 辺 浩 |
| | 交 通 ・ 都 市 シ ス テ ム 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 辰 巳 浩 |
| | 建 築 生 産 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 吉 澤 幹 夫 |
| | 耐 震 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 堺 純 一 |
| | 景 観 デ ザ イ ン 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 柴 田 久 |
| | 住 環 境 デ ザ イ ン 特 論 | 2 | 教 授 博 士(人間環境学) 池 添 昌 幸 |
| | 材 料 強 度 学 特 論 | 2 | 教 授 工 学 博 士 遠 藤 正 浩 |
| | 生 体 材 料 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 森 山 茂 章 |
| | 構 造 材 料 工 学 特 論 | 2 | 准 教 授 博 士(工学) 樋 原 弘 貴 |
| | 高 分 子 材 料 工 学 特 論 | 2 | (担当者未定) |
| | 材 料 強 度 解 析 特 論 | 2 | 教 授 Ph.D. 柳 瀬 圭 児 |
| | 機 械 材 料 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 山 辺 純 一 郎 |
| | 界 面 コ ロ イ ド 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 新 戸 浩 幸 |
| | 環 境 装 置 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(理学) 久 保 田 純 |
| | 環 境 分 離 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 松 隈 洋 介 |
| | 環 境 適 合 化 学 プ ロ セ ス 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 野 田 賢 |
| | 生 物 材 料 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(農学) 重 松 幹 二 |
| | 環 境 工 学 特 論 | 2 | 教 授 博 士(薬学) 田 中 綾 子 |
| | 環 境 触 媒 特 論 | 2 | (担当者未定) |
| 廃 棄 物 処 理 工 学 特 論 | 2 | 准 教 授 博 士(工学) 鈴 木 慎 也 | |
| 廃 棄 物 処 分 シ ス テ ム 特 論 | 2 | (担当者未定) | |
| 建 設 廃 棄 物 処 理 特 論 | 2 | 教 授 博 士(工学) 添 田 政 司 | |

- 1 学生の標準修業年限は3年とし、所定の授業科目について、合計16単位以上を修得しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 学生は、研究指導科目のうちから選定した一つの部門を専修部門とし、主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択、学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。
- 3 主指導教員は、専修部門の特別研究科目の担当者とする。
- 4 副指導教員は、専修部門又はこれと関連する部門の担当者の中から主指導教員が選ぶものとする。
- 5 第1項の16単位は、原則として次の区分によって修得しなければならない。
 - (1) 研究指導科目のうちから、必修として専修部門の特別研究科目8単位、選択必修として専修部門の特別演習科目及び部門共通科目のうちから4単位の計12単位
 - (2) 特修科目から4単位以上
- 6 主指導教員が必要と認めた場合は、学際プログラム、他専攻、他研究科、全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 7 博士の学位論文は、専修部門について提出するものとする。
- 8 主指導教員が認めた場合は、学際プログラムの授業科目を履修することにより課程修了に必要な単位を修得することができる。
- 9 学際プログラムの授業科目、単位及び履修方法については、別表第7の第8に定める。

●情報・制御システム工学専攻

本専攻は、情報処理工学、情報伝送工学、システム制御工学、機能デバイス工学の4専攻で構成されています。知的情報処理、言語工学、システム／ソフトウェア工学、デジタル通信工学を含む情報伝送、電磁波工学、光情報処理、半導体素子を用いた電力変換、ロボット制御に関する研究、さらにシステムをハード面で支える各種機能素子の研究などを複数の専門領域から多角的に展開しています。

令和6年度9月入学生を募集する専攻部門と指導教員及び研究内容

| 専攻部門 | 指導教員 | 研究内容 |
|----------|--------------------|--|
| 情報処理工学 | 教授 博士(工学) 佐藤 寿倫 | 高性能・低電力・高信頼性システムアーキテクチャの研究 |
| | 教授 博士(工学) 中西 恒夫 | 組み込みシステムとその開発方法論に関する研究 |
| | 教授 Ph.D. モニャガ・ワシリー | サイバーフィジカルシステムに関する研究 |
| 情報伝送工学 | 教授 博士(情報工学) 太郎丸 眞 | デジタル無線通信システムとソフトウェア無線機の回路と信号処理に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 孟 志奇 | 電磁波の応用技術と数値解析手法に関する研究 |
| システム制御工学 | 教授 博士(工学) 岩村 誠人 | マルチボディダイナミクス理論の開発とそのロボティクスへの応用に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 小浜 輝彦 | スイッチング電源およびアナログ回路に関する研究 |
| | 教授 工学博士 根葉 保彦 | 電力変換器の開発と応用システムの研究 |
| 機能デバイス工学 | 教授 博士(工学) 末次 正 | 高周波スイッチング増幅器に関する研究、半導体実装に関する研究、機能性デバイスに関する研究 |
| | 教授 博士(理学) 鈴木 孝将 | 電子材料の物性に関するナノエレクトロニクス分野の研究 |
| | 教授 博士(工学) 名倉 徹 | 半導体集積回路に関する研究 |
| | 教授 博士(工学) 文仙 正俊 | 光情報記録、光情報処理や光計測に関する研究 |
| | 教授 工学博士 三島 健司 | 高圧力技術を用いた機能性材料創製に関する研究 |

授業科目, 単位, 担当者及び履修方法 (令和5年度現在)

| 研究指導科目 | | | |
|------------|----------------|-----|---|
| 部門 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
| 情報処理工学専修 | 情報処理工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 佐藤 寿倫 教授 博士(工学) 中西 恒夫 教授 Ph.D. モシニヤガ, ワシリー |
| | 情報処理工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 情報処理工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 情報処理工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 情報処理工学特別研究Ⅴ | 2 | |
| | 情報処理工学特別研究Ⅵ | 2 | |
| 情報伝送工学専修 | 情報伝送工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 大橋 正良 教授 博士(情報工学) 太郎丸 眞 教授 博士(工学) 孟 志奇 |
| | 情報伝送工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 情報伝送工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 情報伝送工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 情報伝送工学特別研究Ⅴ | 2 | |
| | 情報伝送工学特別研究Ⅵ | 2 | |
| システム制御工学専修 | システム制御工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 岩村 誠人 教授 博士(工学) 小浜 輝彦 教授 工学博士 根葉 保彦 |
| | システム制御工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | システム制御工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | システム制御工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | システム制御工学特別研究Ⅴ | 2 | |
| | システム制御工学特別研究Ⅵ | 2 | |
| 機能デバイス工学専修 | 機能デバイス工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 末次 正 教授 博士(理学) 鈴木 孝将 教授 博士(工学) 名倉 徹 教授 博士(工学) 文仙 正俊 教授 工学博士 三島 健司 |
| | 機能デバイス工学特別研究Ⅱ | 2 | |
| | 機能デバイス工学特別研究Ⅲ | 2 | |
| | 機能デバイス工学特別研究Ⅳ | 2 | |
| | 機能デバイス工学特別研究Ⅴ | 2 | |
| | 機能デバイス工学特別研究Ⅵ | 2 | |
| 部門共通 | インターンシップ | 2 | (各指導教員) |
| 特修科目 | | | |
| 部門 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
| | 言語工学特論A | 2 | 教授 工学博士 吉村 賢治 |
| | 言語工学特論B | 2 | (担当者未定) |
| | 知能処理特論A | 2 | (担当者未定) |
| | 知能処理特論B | 2 | 教授 博士(工学) 鶴田 直之 |
| | 知能処理特論C | 2 | 教授 工学博士 吉村 賢治 |
| | 情報処理工学特論A | 2 | 教授 博士(工学) 佐藤 寿倫 |
| | 情報処理工学特論B | 2 | 教授 Ph.D. モシニヤガ, ワシリー |
| | 情報処理工学特論C | 2 | 教授 博士(工学) 中西 恒夫 |
| | 情報処理工学特論D | 2 | 教授 博士(工学) 江田 孝治 |
| | 伝送素子特論 | 2 | (担当者未定) |
| | 情報伝送工学特論A | 2 | 教授 博士(情報工学) 太郎丸 眞 |
| | 情報伝送工学特論B | 2 | 教授 博士(工学) 大橋 正良 |
| | 情報伝送工学特論C | 2 | 教授 博士(工学) 孟 志奇 |
| | 情報伝送工学特論D | 2 | (担当者未定) |
| | パワーエレクトロニクス特論A | 2 | 教授 博士(工学) 小浜 輝彦 |
| | パワーエレクトロニクス特論B | 2 | 教授 工学博士 根葉 保彦 |
| | 機械システム制御特論A | 2 | (担当者未定) |
| | 機械システム制御特論B | 2 | 教授 博士(工学) 岩村 誠人 |
| | 機械システム制御特論C | 2 | (担当者未定) |
| | 機能デバイス工学特論A | 2 | 教授 博士(工学) 文仙 正俊 |
| | 機能デバイス工学特論B | 2 | 教授 博士(工学) 末次 正 |
| | 機能デバイス工学特論C | 2 | 教授 工学博士 三島 健司 |
| | 機能デバイス工学特論D | 2 | 教授 博士(工学) 名倉 徹 |
| | デバイス材料工学特論 | 2 | 教授 博士(理学) 鈴木 孝将 |

- 1 学生の標準修業年限は3年とし、所定の授業科目について、合計16単位以上を修得しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 学生は、研究指導科目のうちから選定した一つの部門を専修部門とし、主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択、学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。
- 3 主指導教員は、専修部門の特別研究科目の担当者とする。
- 4 副指導教員は、専修部門又はこれと関連する部門の担当者の中から主指導教員が選ぶものとする。
- 5 第1項の16単位は、原則として次の区分によって修得しなければならない。
 - (1) 研究指導科目のうちから、必修として専修部門の特別研究のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ8単位、選択必修として専修部門の特別研究のⅤ、Ⅵ及び部門共通科目のうちから4単位、計12単位
 - (2) 特修科目から4単位以上
- 6 主指導教員が必要と認めた場合は、学際プログラム、他専攻、他研究科、全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 7 博士の学位論文は、専修部門について提出するものとする。
- 8 主指導教員が認めた場合は、学際プログラムの授業科目を履修することにより課程修了に必要な単位を修得することができる。
- 9 学際プログラムの授業科目、単位及び履修方法については、別表第7の第8に定める。

学際プログラムについて

—「アグリシステム工学プログラム」及び「都市建設工学プログラム」—

工学研究科では、博士課程後期の2専攻に加え、グローバルな社会に貢献し得る人材を育成することを目的とし、時代の要請にタイムリーに対応できるよう、社会科学、自然科学と工学の分野連携による学際プログラムとして、平成26年度から「アグリシステム工学プログラム」と「都市建設工学プログラム」の2部門を新たに開設しました。

アグリシステム工学プログラムでは、アグリシステムおよびアグリビジネスに対する先進的な知識と応用力を兼ね揃えた技術者の育成、さらには未来へ続く新しい学問体系を創造しうる研究者の育成を目的としています。都市建設工学プログラムは、地域社会の発展を支える公共施設ならびに建築等の民間施設からなるインフラの整備に関する高度で先進的な知識と技術を身につけ、持続可能な安全安心なまちづくりをグローバルな観点から設計・構築・管理できる研究者あるいはリーダーとなりうる技術者の育成を目的としています。

◆学際プログラムを志願（履修）する方法

学際プログラム単独での学生募集は行いません。

学際プログラムの履修を希望する受験生も通常の博士課程後期の入学試験を受験し、出願時に志望する専修部門の指導教員が学際プログラムの指導教員を兼ねている場合のみ、入学後、指導教員と相談のうえ、通常の専修部門で履修し課程修了に必要な単位を修得するのか、学際プログラムを履修し課程修了に必要な単位を修得するのかを選択することができます。

令和6年度の入学者で、入学後に学際プログラムの履修を選択可能な指導教員は以下のとおりです。

| 志望専攻 | 志望専修部門 | 指導教員 | 学際プログラム履修部門 |
|------------------|--------------|----------------------------------|------------------|
| エネルギー・環境システム工学専攻 | 環境プロセス工学専修 | 教授 博士(工学) 野田 賢 | ⇔ アグリシステム工学プログラム |
| | 都市環境工学専修 | 教授 博士(工学) 堺 純一 | ⇔ 都市建設工学プログラム |
| | | 教授 博士(工学) 佐藤 研一 教授 工学博士 高山 峯夫 | |
| | 資源循環システム工学専修 | (担当者未定) | |
| 情報・制御システム工学専攻 | 情報処理工学専修 | 教授 博士(工学) 中西 恒夫 | ⇔ アグリシステム工学プログラム |

◆学際プログラムの履修を選択した場合の所属専攻

入学を許可された専攻（エネルギー・環境システム工学専攻又は情報・制御システム工学専攻）に所属します。学際プログラムの履修を選択しても所属の専攻が変わることはありません。

◆学際プログラムのカリキュラム等

「アグリシステム工学プログラム」と「都市建設工学プログラム」の授業科目、単位及び履修方法については次ページを参照してください。

工学研究科博士課程後期における学際プログラムの授業科目、単位及び履修方法(令和5年度現在)

| 部門 | 研究指導科目 | | | 特修科目 | | |
|-----------------|-------------------|--------------------|--------------------|---------------|----|-------------------|
| | 授業科目 | 単位 | 担当者 | 授業科目 | 単位 | 担当者 |
| アグリシステム工学プログラム | バイオマス利用工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(農学) 重松 幹二 | 発酵工学特論 | 2 | (担当者未定) |
| | バイオマス利用工学特別研究Ⅱ | 2 | | 環境プロセス工学特論 | 2 | (担当者未定) |
| | バイオマス利用工学特別研究Ⅲ | 2 | | バイオマテリアル特論 | 2 | 教授 博士(農学) 重松 幹二 |
| | バイオマス利用工学特別研究Ⅳ | 2 | | アグリプロセス特論 | 2 | 教授 博士(工学) 野田 賢 |
| | バイオマス利用工学特別演習Ⅰ | 2 | | スマートアグリ特論 | 2 | 教授 博士(工学) 中西 恒夫 他 |
| | バイオマス利用工学特別演習Ⅱ | 2 | | アグリビジネス特論 | 2 | (担当者未定) |
| | アグリプロセス工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 野田 賢 | | | |
| | アグリプロセス工学特別研究Ⅱ | 2 | | | | |
| | アグリプロセス工学特別研究Ⅲ | 2 | | | | |
| | アグリプロセス工学特別研究Ⅳ | 2 | | | | |
| | アグリプロセス工学特別演習Ⅰ | 2 | | | | |
| | アグリプロセス工学特別演習Ⅱ | 2 | | | | |
| | スマートアグリ特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 中西 恒夫 | | | |
| | スマートアグリ特別研究Ⅱ | 2 | | | | |
| | スマートアグリ特別研究Ⅲ | 2 | | | | |
| | スマートアグリ特別研究Ⅳ | 2 | | | | |
| スマートアグリ特別演習Ⅰ | 2 | | | | | |
| スマートアグリ特別演習Ⅱ | 2 | | | | | |
| 都市建設工学プログラム | 建築耐震工特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 堺 純一 | 建築耐震性能評価特論 | 2 | 教授 博士(工学) 堺 純一 |
| | 建築耐震工特別研究Ⅱ | 2 | | 道路地盤保全システム特論 | 2 | 教授 博士(工学) 佐藤 研一 |
| | 建築耐震工特別研究Ⅲ | 2 | | 建築耐震・制震性能評価特論 | 2 | 教授 工学博士 高山 峯夫 |
| | 建築耐震工特別研究Ⅳ | 2 | | 都市基盤保全システム特論 | 2 | 教授 博士(工学) 添田 政司 |
| | 建築耐震工特別演習Ⅰ | 2 | | 都市交通政策特論 | 2 | (担当者未定) |
| | 建築耐震工特別演習Ⅱ | 2 | | 都市環境情報システム学特論 | 2 | (担当者未定) |
| | 道路地盤保全システム工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 佐藤 研一 | | | |
| | 道路地盤保全システム工学特別研究Ⅱ | 2 | | | | |
| | 道路地盤保全システム工学特別研究Ⅲ | 2 | | | | |
| | 道路地盤保全システム工学特別研究Ⅳ | 2 | | | | |
| | 道路地盤保全システム工学特別演習Ⅰ | 2 | | | | |
| | 道路地盤保全システム工学特別演習Ⅱ | 2 | | | | |
| | 建築免震・制震設計特別研究Ⅰ | 2 | 教授 工学博士 高山 峯夫 | | | |
| | 建築免震・制震設計特別研究Ⅱ | 2 | | | | |
| | 建築免震・制震設計特別研究Ⅲ | 2 | | | | |
| | 建築免震・制震設計特別研究Ⅳ | 2 | | | | |
| | 建築免震・制震設計特別演習Ⅰ | 2 | | | | |
| | 建築免震・制震設計特別演習Ⅱ | 2 | | | | |
| 維持管理システム工学特別研究Ⅰ | 2 | 教授 博士(工学) 添田 政司 | | | | |
| 維持管理システム工学特別研究Ⅱ | 2 | | | | | |
| 維持管理システム工学特別研究Ⅲ | 2 | | | | | |
| 維持管理システム工学特別研究Ⅳ | 2 | | | | | |
| 維持管理システム工学特別演習Ⅰ | 2 | | | | | |
| 維持管理システム工学特別演習Ⅱ | 2 | | | | | |
| 共通科目 | | | | | | |
| | 授業科目 | 単位 | 担当者 | | | |
| | インターンシップ | 2 | 各指導教員 | | | |
| | 公共政策学特論 | 2 | (担当者未定) | | | |
| | 経済マネジメント特論 | 2 | (担当者未定) | | | |
| | 防災通信特論 | 2 | (担当者未定) | | | |

- 1 学生の標準修業年限は3年とし、所定の授業科目について、合計16単位以上を修得しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 学生は、研究指導科目のうちから主指導教員が担当する一つの授業科目群を選定し、主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択、学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。
- 3 主指導教員は、特別研究科目の担当者とする。
- 4 副指導教員は、主指導教員が選ぶものとする。
- 5 第1項の16単位は、原則として次の区分によって修得しなければならない。
 - (1) 研究指導科目のうちから、必修として特別研究科目8単位、選択必修として特別演習科目及び共通科目のうちから4単位の計12単位
 - (2) 特修科目から4単位以上
- 6 主指導教員が必要と認めた場合は、所属する専攻、他専攻、他研究科、全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 7 博士の学位論文は、部門について提出するものとする。

12 そ の 他

◇ 既修得単位認定制度

本学大学院に入学する前に本学大学院及び他の大学院（外国を含む。）において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科通常委員会の議を経て、15 単位を超えない範囲で本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとして認めることがあります。希望者は、申請条件や申請時期等について、出願前に大学院事務課へご確認ください。

◇ 奨学金制度

・日本学生支援機構奨学金と地方公共団体、民間団体が実施している奨学制度があり、広く活用しています。

これらの奨学金には、返還義務のある「貸与型奨学金」や返還義務のない「給付型奨学金」があり、条件もそれぞれ異なっていますので、事前の確認を忘れないようにしてください。

・募集・案内等は、内容に応じて大学院事務課前・中央・各学部事務室の掲示板およびF Uポータルで行います。担当窓口は、学生課の奨学金窓口です。

【貸与型奨学金例（返還義務のあるもの）】

| 種 類 | | 詳 | 細 |
|--------------|--|---|---|
| 日本学生支援機構の奨学金 | 第一種奨学金 ・無利子 ・返還免除制度あり | 人物、学業ともに優れ、経済的理由によって修学困難な学生に対し、日本学生支援機構から貸与される制度です。貸与期間は標準修業年限内です。 なお、収入基準額は、学部学生は家計支持者の収入額ですが、大学院生は本人の収入額です。 | 《募集時期》 ・在学採用 9月下旬～10月上旬 対象者 全在学生 |
| | 第二種奨学金 ・有利子 | 【入学時特別増額貸与】 1年次において、第一種または、第二種奨学金の貸与を受ける方で、希望者は所定の手続きにより交付初回のみ増額して貸与を申込むことができます。（10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から選択） | 《採用人員（令和4年度実績）》《貸与額（月額）》 ・第一種奨学金 修士課程・博士課程前期 78名…（5万円・8万8千円） 博士課程後期 6名…（8万円・12万2千円） 博士課程 2名…（8万円・12万2千円） ・第二種奨学金 修士課程・博士課程前期 6名 博士課程後期 2名 【全課程共通】 （5万円・8万円・10万円・13万円・15万円） |
| | 緊急奨学金 （第一種）/無利子 応急奨学金 （第二種）/有利子 | 家計の急変（主たる家計支持者が失職、破産、事故、病気若しくは死亡又は、火災、風水害の災害等）で奨学金を緊急・応急に必要とする場合（但し、事由発生から1年以内。）に申込むことができます。 | |

上記の内容で不明な点等があれば、学生課奨学金担当に相談してください。

博 士 課 程 後 期
《外国人留学生入学試験》

博士課程後期

《外国人留学生入学試験》

- ◇国内志願者とは、既に日本国に在留している志願者です。
◇国外志願者とは、受験のために外国から日本国に来る志願者です。

1 募集人員

| 研究科名 | 専攻名 | 課程名 | 標準修業年限 | 入学定員 |
|-------|------------------|--------|--------|------|
| 工学研究科 | エネルギー・環境システム工学専攻 | 博士課程後期 | 3年 | 4名 |
| | 情報・制御システム工学専攻 | | | 4名 |

※入学定員には、専攻で実施するすべての入学試験の人員を含みます。

2 出願資格

| 《博士課程後期》 |
|--|
| 次のいずれかの条件に該当する者で、★印の要件を満たす者 |
| ① 日本の大学院において、修士の学位を授与された者又は学校教育法第104条第1項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者及び令和6年3月までに取得見込みの者 |
| ② 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者 |
| ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者 |
| ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者 |
| ⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者 |
| ⑥ 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 |
| ⑦ 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの及び令和6年3月までに達するもの ^(注) |
| ★在学中の経費支弁能力のある者 |
| ★日本語で講義・研究指導を受ける者は、指定された日本語能力がある者 |
| (注) 出願資格⑦に該当し出願を希望する者は、第一次選考（書類審査及び出願資格審査）において資格審査を行います。 |

3 願書受付期間・入学試験日

| 募集区分 | | 願書受付期間 | 試験日 |
|--------|-------|-----------------------|----------------|
| 試験季別 | 対象 | | |
| 9月入学試験 | 国外志願者 | 令和6年3月11日(月)～3月27日(水) | 令和6年7月6日(土) 予定 |
| | 国内志願者 | 令和6年5月13日(月)～5月15日(水) | |

4 願書 (第1次選考書類) 受付時間・場所

① 受付時間

午前10時～午後4時(正午～午後1時を除きます)

② 受付場所・問合せ先

福岡大学 大学院事務課 (福岡大学 中央図書館6階)

福岡市城南区七隈八丁目19番1号 (〒814-0180)

☎ (092) 871-6631 内線 2913～2916

※郵送の場合は書留郵便とし、受付最終日まで必着とします。

封筒の表には、「工学研究科出願書類在中」と朱書きしてください。

5 出願手続

- (1) 提出書類その他(※国外志願者は出願書類が異なりますので、大学院事務課までお問合せください。) 以下の事項に注意し、必要書類を提出してください。なお、出願資格によっては、提出書類以外の書類提出をお願いすることがあります。

*提出書類は、出願資格により異なります。該当する提出書類一覧の○印の付いた書類はすべて提出してください。

*本人が記入する書類は、特に指定のない限りすべて日本語で記入してください。

*提出書類は、写しを許可されたもの以外、すべて本書を提出してください。(コピーは受けません。)

写しを要するものは、受付時に大学院事務課で写しをとり、本書は返却いたします。

*証明書等は、原則として発行日から3ヵ月以内のものを提出してください。

*母国語で作成された書類には、和文又は英文の翻訳文を添付してください。

| 《 国内 志 願 者 》 出願資格：①～⑥による志願者 | |
|---|------------|
| 提 出 書 類 | 博士課程 後期 |
| 1. 志願票 <u>外国人留学生用</u> ・副票・受験票(本学所定用紙) | ○ |
| 2. 成績証明書 ・博士課程後期の志願者は、出身大学及び出身大学院の成績証明書 ※詳細はp. 20で確認してください。 | ○ |
| 3. 卒業・修了に関する証明 ・出身大学院の修了証明書(修了証書でも可)又は修了見込証明書 ※詳細はp. 20で確認してください。 | ○ |
| 4. 修士論文の内容の要旨 ※日本語で書かれたもの A4縦長・横書き、書式は自由。なお、英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。 | ○ |
| 5. 研究計画書(本学所定用紙) ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。(ワープロ作成のものは不可)なお、英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。 | ○ |
| 6. 志望理由書(本学所定用紙) ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。(ワープロ作成のものは不可)なお、英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。 | ○ |
| 7. 英語能力を証明する書類 ・ <u>エネルギー・環境システム工学専攻および情報・制御システム工学専攻各専攻(英語で講義を受けることを希望する者のみ)</u> TOEIC L&R, TOEFL または IELTS のスコア証明書(提出必須, コピー可, 但し試験日当日原本持参のこと) ※提出できるスコア証明書は、TOEIC L&R は TOEIC L&R 公開テスト公式認定書, TOEFL は TOEFL の受験者成績表, IELTS は IELTS の成績証明書とします。(福岡大学において実施された TOEIC L&R (IP) テストおよび TOEFL (ITP) テストの結果は有効と認めます) | 該当者のみ |

| 提出書類 | 博士課程後期 |
|---|--------|
| <p>8. 日本語能力証明 工学研究科では「日本語能力試験」N2 レベル（2 級）以上の日本語能力を有することが条件です。（但し、英語で講義を受けることを希望する者には、この条件を適用しません） 以下のいずれか1つを提出してください。</p> <p>① （財）日本国際教育支援協会又は国際交流基金が実施する「日本語能力試験」N1 またはN2 レベル（2009 年以前の受験生は、1 級または2 級）の合格認定書</p> <p>② 日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書 ※ただし、過去2 年間に於いて実施された試験のいずれかにおいて、聴解・聴読解・読解の合計が200 点以上の成績を得ていること。</p> <p>③ 上記①または②の書類提出が不可能な場合は、「日本語能力認定書」（本学所定用紙） ※「日本語能力認定書」は日本語講師、日本政府の在外公館員、その他適当と思われる者に記入を依頼してください。</p> | ○ |
| 9. 経費支弁計画書（本学所定用紙） | ○ |
| <p>10. 1 年分の学費・生活費の支払能力があることを証明する書類 （「経費支弁計画書」の収入を立証する書類）</p> <p>次の①・②（全員提出）と③～⑥で該当するものを全て提出してください。</p> <p>① 志願者名義の預金残高証明書（日本円又はUS ドルによるもの）</p> <p>② 当該預金の過去1 年間の入出金の経緯が明らかになる預金通帳等の現物 ※提出不可能な場合は、その理由書を添付してください。（A4 サイズ 書式は自由） ※郵送の場合は、必要な部分の全てのページの写し</p> <p>③ 「資格外活動許可書」を取得している者はその写し</p> <p>④ 入学年9 月以降に奨学金受給が決定している者は奨学金受給証明書</p> <p>⑤ 外国（本国の親族等）からの送金を受ける場合は、送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）^{※注}</p> <p>⑥ 在日する親族等からの送金を受ける場合は、送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）^{※注} ※印鑑は実印を使用してください。</p> <p>※注）⑤・⑥の「経費支弁書」が母国語で作成されている場合は、和文又は英文の翻訳文を添付してください。</p> | ○ |
| <p>11. 住民票（マイナンバーの記載がないもの） ※市町村区役所発行のもので、在留カードNo.（又は外国人登録番号）・在留資格・在留期限が明記されたもの</p> | ○ |
| <p>12. パスポート（大学院事務課で写しをとりますので、原本を持参願います。） ※郵送の場合は、氏名・国籍・パスポート番号・顔写真が記載されているページの写し</p> | ○ |
| 13. 住所シート（本学所定用紙） | ○ |
| 14. 提出書類チェックリストA（本学所定用紙） | ○ |

| 《 国内 志 願 者 》 出願資格：⑦による志願者 | |
|---|--------|
| ◇出願条件：短期大学, 高等専門学校, 専修学校, 各種学校の卒業生, その他の教育施設の修了者であること。 （博士課程後期志願者には、大学卒業者を含む。） | |
| 提出書類 | 博士課程後期 |
| <p>1. 志願票 <u>外国人留学生用</u> ・副票・受験票（本学所定用紙） ※ 「志願票」裏面について ・職歴または研究歴がある者は記入してください。 ・業績（著書・研究論文・学会発表・特許）がある者は「資格・賞罰等」の欄に記入し、その現物の写しも提出してください。 ・専門性に係る資格及び実務経験がある者は「資格・賞罰等」の欄に記入してください。（資格保有者は、その証明書の写しを添付してください）</p> | ○ |
| 2. 最終卒業又は修了学校の成績証明書 ※詳細はp. 20で確認してください。 | ○ |
| 3. 最終卒業又は修了学校の卒業証明書（卒業証書でも可） ※詳細はp. 20で確認してください。 | ○ |
| 4. 研究計画書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成不可）なお、英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。 | ○ |

| 提出書類 | 博士課程後期 |
|---|--------|
| 5. 志望理由書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成不可）なお、英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。 | ○ |
| 6. 最終学歴以降の活動歴 ※1,000字程度。A4縦長・横書で書式は自由。 | ○ |
| 7. 英語能力を証明する書類 ・エネルギー・環境システム工学専攻および情報・制御システム工学専攻各専攻（英語で講義を受けることを希望する者のみ） TOEIC L&R, TOEFL または IELTS のスコア証明書（ <u>提出必須</u> ，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ※提出できるスコア証明書は，TOEIC L&R は TOEIC L&R 公開テスト公式認定書，TOEFL は TOEFL の受験者成績表，IELTS は IELTS の成績証明書とします。（福岡大学において実施された TOEIC L&R（IP）テストおよび TOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます） | 該当者のみ |
| 8. 日本語能力証明 工学研究科では「日本語能力試験」N2 レベル（2 級）以上の日本語能力を有することが条件です。（但し，英語で講義を受けることを希望する者には，この条件を適用しません） 以下のいずれか1つを提出してください。 ①（財）日本国際教育支援協会又は国際交流基金が実施する「日本語能力試験」N1 または N2 レベル（2009 年以前の受験生は，1 級または 2 級）の合格認定書 ② 日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書 ※ただし，過去 2 年間に於いて実施された試験のいずれかにおいて，聴解・聴読解・読解の合計が 200 点以上の成績を得ていること。 ③ 上記①または②の書類提出が不可能な場合は，「日本語能力認定書」（本学所定用紙） ※「日本語能力認定書」は日本語講師，日本政府の在外公館員，その他適当と思われる者に記入を依頼してください。 | ○ |
| 9. 経費支弁計画書（本学所定用紙） | ○ |
| 10. 1 年分の学費・生活費の支払能力があることを証明する書類 （「経費支弁計画書」の収入を立証する書類） 次の①・②（全員提出）と③～⑥で該当するものを全て提出してください。 ① 志願者名義の預金残高証明書（日本円又は US ドルによるもの） ② 当該預金の過去 1 年間の入出金の経緯が明らかになる預金通帳等の現物 ※提出不可能な場合は，その理由書を添付してください。（A4 サイズ 書式は自由） ※郵送の場合は，必要な部分の全てのページの写し ③ 「資格外活動許可書」を取得している者はその写し ④ 入学年 9 月以降に奨学金受給が決定している者は奨学金受給証明書 ⑤ 外国（本国の親族等）からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙） ^{※注} ⑥ 在日する親族等からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙） ^{※注} ※印鑑は実印を使用してください。 ※注）⑤・⑥の「経費支弁書」が母国語で作成されている場合は，和文又は英文の翻訳文を添付してください。 | ○ |
| 11. 住民票（マイナンバーの記載がないもの） ※市町村区役所発行のもので，在留カードNo（又は外国人登録番号）・在留資格・在留期限が明記されたもの | ○ |
| 12. パスポート（大学院事務課で写しをとりますので，原本を持参願います。） ※郵送の場合は，氏名・国籍・パスポート番号・顔写真が記載されているページの写し | ○ |
| 13. 住所シート（本学所定用紙） | ○ |
| 14. 提出書類チェックリスト C（本学所定用紙） | ○ |

〈外国人留学生 卒業/修了（見込）証明書、成績証明書、学位取得証明書について〉

- ・全ての証明書は、日本語又は英語で作成された原本であること。日本語・英語以外の言語で作成されたものは、日本語または英語の翻訳文を原本のコピーに添付して提出すること。
- ・卒業・修了に関する証明書に学位に係る記載がない場合は、学位の取得又は取得見込みを立証する書類の原本を提出すること。
- ・提出された証明書の原本は返却しません。
※原本を提出できない場合は、Certified true copy（証書の原本から正しく複製されたものであることを証明した公証書）を提出すること。

〈中国の教育機関出身の志願者へ〉

中国の教育機関出身者は、下記の認証機関において認証した「中国語版電子報告書」（学位・学歴・成績）を提出してください。

【学位取得証明書】

学位（学士号）の「認証報告」（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（<https://www.chsi.com.cn>）が認証したもの

中国高等教育学歴認証報告（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（<https://www.chsi.com.cn>）が認証したもの

【成績証明書】

中国高等学校学生成績検証報告（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（<https://www.chsi.com.cn>）が認証したもの

認証機関以外からの認証結果は一切受け取りません。志願者本人または代理人が受信した電子認証報告メールの転送は無効となります。願書受付期間の最終日（必着）までに、福岡大学大学院事務課のメールアドレス（gakuin@adm.fukuoka-u.ac.jp）に認証結果が直接送付されるように手続きを行ってください。

(2) 第1次選考（書類審査及び出願資格審査）について

第1次選考では、出願資格の審査対象（16頁「2出願資格」（注）参照）となる志願者については出願資格審査と書類審査を行い、それ以外の出願資格による志願者については書類審査のみを行います。各審査結果は、審査終了後本人へ通知します。

(3) 第2次選考検定料（入学検定料）の納入方法

第1次選考の結果、受験が認められた方は第2次選考検定料を所定の期日までに納入してください。納入方法に関する詳細は、第1次選考の書類提出時に別途指示します。

| | |
|-----------------|---------|
| 第2次選考検定料（入学検定料） | 30,000円 |
|-----------------|---------|

(4) 出願上の注意

- ① 該当する出願資格に記載された条件の内容を必ず確認してください。
- ② 工学研究科の志願者は、「日本語能力試験」N2レベル（2級）以上の日本語能力が必要です。但し、英語で講義を受けることを希望する方は除きます。
- ③ 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。
- ④ 出願書類の提出は、受付時に確認事項があるので、特別な理由がない限り窓口を持参してください。（国外志願者以外）
なお、国外志願者については、日本在住の知人を通じて出願書類を郵送しても構いません。
- ⑤ 出願手続等に関する照会は、原則として志願者本人が行ってください。
- ⑥ 志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は、各専攻の入学生を募集する専修部門（7～11頁参照）の中から1部門を選択し、その名称を記入してください。
「指導教員」欄には、志望する専修部門の指導教員1名の氏名を記入してください。
- ⑦ 一度払い込まれた第2次選考検定料（入学検定料）及び提出した書類（論文含む）の返還請求には応じません。
- ⑧ 健康の状況について
疾病・障がい等により、受験時および修学上配慮を必要とされる方は、出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書や障害者手帳のコピーを追加で提出してください。）

6 受験票及び受験許可書

※出願手続完了者には、「受験票」を送付します。また、国外志願者には「受験許可書」^{注)}を発行し、併せて送付します。

※試験日の5日前までに到着しない場合は大学院事務課へ連絡してください。

※「受験票」は入学手続完了まで保管してください。

注) 受験許可書は、国外志願者が来日受験するために、志願者本人が本国において行なう出入国手続（受験を目的とする短期滞在ビザの取得）に便宜をはかるため発行するものです。

7 試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目19番1号 福岡大学内

※試験会場は、試験日当日の午前8時30分に中央図書館西側1階入口（大学院エントランス）に掲示します。

※受験者は、午前9時までに試験会場に集合してください。

8 試験科目・試験時間

■全専攻共通《一般》

| 時 間 | 試 験 科 目 |
|---------------|---|
| 9:00～ | 受験上の注意 |
| 9:15～10:15 | ◆ 英 語 |
| 10:30～12:00 | ◆ 専門科目 [※他大学院出身者のみ実施] 専修部門の科目について筆記試験を行う。 |
| (注) 12:40～ | ◆ 面 接 研究計画に関する口頭試問を行う。 ----- (注) 面接の開始時間は、受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。 |

■全専攻共通《社会人》 ※最終学校を卒業・修了・退学した後、入学時に日本国内での社会人経験3年以上の者

| 時 間 | 試 験 科 目 |
|---------------|--|
| 9:00～ | 受験上の注意 |
| 9:15～10:15 | ◆ 小 論 文 |
| (注) 12:40～ | ◆ 面 接 小論文及び研究計画書による口頭試問を行う。 ----- (注) 面接の開始時間は、受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。 |

9 合 格 発 表

- ① 合格発表日時：令和6年7月23日（火） 午前10時
- ② 合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者へ入学手続書類を郵送（簡易書留）します。
不合格者への通知はいたしません。
◆ 掲示場所：大学院事務課前
- ③ 福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」(<https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/>)
に合格者の受験番号を掲載いたします。
- ④ 合否に関する電話での問合せには一切応じません。
- ⑤ 出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

10 入 学 手 続

※ 5～6頁の「10 入学手続」を参照してください。

個人情報の取扱いについて

本学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき、「学校法人福岡大学個人情報保護規程」を定め個人情報の保護に努めています。「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づく、「個人番号」および「特定個人情報」に関しても同様です。本学学生の個人情報に関する基本的な姿勢と取扱いについてご説明いたします。

1. 法令の遵守と学内規程の整備

本学は、「個人情報の保護に関する法律」その他法令の規定を遵守すると共に、個人情報の取得、保管、利用など取扱いに関する必要な事項を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

2. 個人情報の取得

本学は、本学の学生から個人情報を取得する際には、あらかじめ利用目的を特定し、その利用目的の達成に必要な範囲内において、公正な手段により取得します。また、思想、信条及び宗教に関する個人情報は取得しません。

〈主な利用目的〉

- 学生募集，入学試験に関する業務
- 履修・成績管理に関する業務
- 入学，卒業，退学，休学等の学籍管理に関する業務
- 課外活動，健康管理に関する業務
- 奨学金に関する業務
- 授業料その他納付金等の収納・督促に関する業務
- 就職・進路支援に関する業務
- 教育改善のための教学情報の活用に関する業務
- 個人番号関係業務
- 一般社団法人福岡大学同窓会有信会の運営に関する業務
- 福岡大学父母後援会の運営に関する業務
- その他学生生活，修学指導に関する業務

※詳しくは、大学ホームページに掲載している「学校法人福岡大学個人情報保護規程別表」等をご覧ください。

3. 個人情報の利用

本学が保有する個人情報は、法令に基づく場合を除き、本人の同意を得ないで、定められた利用目的以外の利用や、第三者への提供は行いません。

4. 個人情報の管理

本学は、個人情報の管理体制を整備し、個人データについては利用目的の達成に必要な範囲内において正確かつ最新の内容に保ち、漏えい、滅失又は毀損の防止など安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

なお、個人情報の取扱いを外部に委託する場合は、委託先が個人情報の安全管理のために適切な措置を講じるよう監督し、その内容を委託契約に明記します。

5. 個人情報の開示等

本学は、本人からの当該保有個人データの開示、訂正（追加，削除含む）、利用停止の請求を受け付けます。

6. 個人情報に関する問合せ先

本学の個人情報に関する苦情やご質問は、個人情報の内容によって受付窓口が異なります。大学公式ホームページの個人情報関連のページをご覧ください。下記あてにお問い合わせください。

【問合せ先】 福岡大学 総務課

福岡大学大学院 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、本来の標準修業年限（修士課程・博士課程前期＝2年、博士課程後期＝3年、博士課程＝4年）では履修が困難と認められる者について、長期履修学生として標準修業年限を超えて履修を可能とする制度です。

長期履修学生として申請するにあたっては、長期履修期間中の履修や研究方法等について、あらかじめ当該研究科・専攻（在学学生は指導教員）に相談してください。

1. 対象者

長期履修学生として申請することができる者は、次のいずれかに該当する者としします。なお、外国人留学生（在留資格「留学」を有する者）は申請できません。

(1) 新たに本学大学院に入学（進学を含む）する者のうち、次のいずれかに該当するため、標準修業年限での履修が困難な者

- ①職業を有し、就業している者
- ②家事、介護、育児、出産等の諸事情を有する者
- ③その他、研究科長が相当の事情があると認めた者

(2) 本研究科に在学する者のうち、次のいずれかに該当するため、標準修業年限での履修が困難な者

（在学中に、新たに標準修業年限での履修が困難となる事由が生じた場合。なお、標準修業年限における修了予定年次（最終学年）に在学している者は申請できません。）

- ①職業を有し、就業している者
- ②家事、介護、育児、出産等の諸事情を有する者
- ③その他、研究科長が相当の事情があると認めた者

2. 長期履修期間

長期履修学生の履修期間および在学中に長期履修を開始することができる学年は次の通りです。

| 課程 | 標準修業年限 | 長期履修期間 | 最長在学年限 | 在学学生長期履修開始可能学年 |
|-------------|---------|-------------------|--------|----------------|
| 修士課程・博士課程前期 | 入学時から2年 | 入学時から3年または4年 | 4年 | 2年 |
| 博士課程後期 | 入学時から3年 | 入学時から4年または5年または6年 | 6年 | 2年、3年 |
| 博士課程 | 入学時から4年 | 入学時から5年または6年 | 8年 | 2年、3年、4年 |

※長期履修期間は入学時を開始基準とします。

※長期履修期間は1年間単位とします。

※長期履修学生の最長在学年限は、標準修業年限での履修生と同じです。

※休学期間は履修期間に含めません。

※長期履修学生の早期修了（標準修業年限より短い期間での修了）はできません。

3. 申請手続

(1) 申請期間

① 入学時から長期履修学生となることを希望する場合

……………入学試験出願時

② 在学生在新たに長期履修学生となることを希望する場合

……………開始を希望する前年度の6月末まで

(標準修業年限における最終学年在学者は申請できません。)

(2) 申請書類

① 長期履修学生申請書及び理由書(様式1)

② 研究計画書(博士課程後期および博士課程のみ)(様式2)

③ その他、当該研究科が必要と認める書類

※申請理由に応じて、長期履修を必要とすることを証明する書類等を提出していただく場合があります。

※申請書類は、大学院個別サイト (<https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/>) 内の「入学試験」メニュー⇒「長期履修制度」ページからダウンロードしてください。

4. 学費等納入金

(1) 入学時から長期履修学生となる場合

- ・基本的に標準修業年限の授業料等の総額を、長期履修期間の修業年数で按分した額が年額となります。
- ・2年目以降の学費等納入金のうち、「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

(2) 在学生在新たに長期履修学生となる場合

- ・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した標準の授業料等の総額を減じた額を、長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。
- ・2年目以降の学費等納入金のうち、「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

5. 結果の通知

(1) 入学時から長期履修学生となることを希望する場合

- ・長期履修を希望する事由や研究計画等に基づき審査の上、入学試験合格発表時に合格通知とともに送付します。

(2) 在学生在新たに長期履修学生となることを希望する場合

- ・長期履修を希望する事由や研究計画等に基づき審査の上、8月末までに通知します。

6. 長期履修期間の変更(延長・短縮・取消)

長期履修学生として許可された者が、長期履修の期間の延長、短縮あるいは取消を必要とする事由が生じた場合は、指導教員の承認を得た上で、長期履修期間の変更を1回に限り願い出ることができます。

(1) 変更の願出期間

・変更を希望する前年度の6月末まで

(2) 変更願出書類

①長期履修学生変更願書及び理由書

- ・延長(様式3)
- ・短縮(様式4)
- ・取消(様式5)

②その他、当該研究科が必要と認める書類

※申請理由に応じて、長期履修を必要とすることを証明する書類等を提出していただく場合があります。

(3) 変更可能な長期履修期間と学年

| 変更 | 課程 | 長期履修期間 (変更前→変更後) | 変更手続き可能学年 |
|----------------|-------------|---------------------|----------------|
| 延長 | 修士課程・博士課程前期 | 入学時から3年→4年 | 1年又は2年 |
| | 博士課程後期 | 入学時から4年→5年 | 1年, 2年又は3年 |
| | | 入学時から4年→6年 | 1年, 2年又は3年 |
| | | 入学時から5年→6年 | 1年, 2年, 3年又は4年 |
| | 博士課程 | 入学時から5年→6年 | 1年, 2年, 3年又は4年 |
| 短縮 | 修士課程・博士課程前期 | 入学時から4年→3年 | 1年又は2年 |
| | 博士課程後期 | 入学時から5年→4年 | 1年, 2年又は3年 |
| | | 入学時から6年→5年 | 1年, 2年, 3年又は4年 |
| | | 入学時から6年→4年 | 1年, 2年又は3年 |
| | 博士課程 | 入学時から6年→5年 | 1年, 2年, 3年又は4年 |
| 取消 | 修士課程・博士課程前期 | 入学時から3年→2年(標準) | 1年 |
| | | 入学時から4年→2年(標準) | |
| | 博士課程後期 | 入学時から4年→3年(標準) | 1年又は2年 |
| | | 入学時から5年→3年(標準) | |
| | | 入学時から6年→3年(標準) | |
| | 博士課程 | 入学時から5年→4年(標準) | 1年, 2年又は3年 |
| 入学時から6年→4年(標準) | | | |

※延長は、変更前の長期履修期間における最終学年在学者は願い出ることができません。

※短縮は、短縮後に1年以上の修業期間がない場合は願い出ることができません。

※取消は、標準修業年限における最終学年(修士課程・博士課程前期=2年, 博士課程後期=3年, 博士課程=4年)在学者は申請できません。

※変更は1回に限り願い出ることができません。

※取消を行った場合、あらためて長期履修学生に申請することはできません。

(4) 授業料等納入金

※授業料等納入金（以下、「授業料等」）とは、「授業料」及び「教育充実費」を指します。

※在学中、毎年度納入が必要な学生健康保険互助組合費等の「委託徴収金」は授業料等には含まれません。

①延長

- ・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した変更（延長）前の授業料等の総額を減じた額を、長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。

②短縮

- ・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した変更（短縮）前の授業料等の総額を減じた額を、長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。

③取消

- ・基本的に取消後は標準修業年限の授業料等年額になります。
- ・ただし、そこまでに納付すべき標準修業年限の授業料等の総額から既に納付した授業料等の総額を控除した額を、取消後の最初の年度に授業料に上乗せして徴収します。

(5) 結果の通知

- ・変更を必要とする事由や研究計画等に基づき審査の上、8月末までに通知します。

7. 長期履修制度利用にあたっての注意

- ・独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与において、長期履修に応じた貸与は入学時に申請した場合にのみ適用されます。在学中の申請あるいは長期履修期間の変更等を行う場合は対象外となることがあります。

■福岡大学までの交通機関

福岡大学アクセスマップ



地下鉄のご案内

| |
|--|
| 福岡空港駅から [空港線] |
| 博多駅まで 5分 |
| 天神駅まで 11分 |
| 博多駅から [七隈線] |
| 福大前駅まで 20分 |
| ▶空港線博多駅から七隈線博多駅乗り換え所要時間3分 |
| 天神南駅から [七隈線] |
| 福大前駅まで 16分 |
| ▶空港線天神駅から七隈線天神南駅乗り換え 所要時間7分~8分 (550m) |
| 薬院駅から [七隈線] |
| 福大前駅まで 13分 |

※時間帯によって交通混雑が予想されますので、所要時間は目安としてください。
 ※バスの行き先番号が同じでも行き先が異なることがありますので、バス正面の行先（経由地）をご確認ください。
 ・地下鉄に関する情報……福岡市交通局 <https://subway.city.fukuoka.lg.jp/>
 ・バスに関する情報……西鉄バス <https://www.nishitetsu.jp/bus/>



バスのご案内

| |
|--|
| 博多から 35分~45分 |
| ▶行先番号 ⑫⑬⑭番もしくは エコルライナー(快速)[平日のみ]をご利用ください。 |
| 天神から 25分~30分 |
| ▶行先番号 ⑫⑬⑭番もしくは エコルライナー(快速)[平日のみ]をご利用ください。 |



車・タクシーのご案内

| |
|---------------------|
| 博多から 45分 |
| 天神から 30分 |
| 福岡空港から 30~45分 |
| 西新から 約15分 |

高速道路をご利用の場合

[唐津方面からの場合]

西九州自動車道（福岡前原道路）から都市高速道路環状線に入ります。野芥ランプで降りた後、福大トンネル出入口の手前を右折し、梅林中学校入口を左折します。500mほど直進した後、福岡大学病院東口交差点を直進します。

[北九州および福岡県外(大分・熊本方面など)からの場合]

九州自動車道の太宰府 IC（インターチェンジ）から都市高速道路に乗り、月隈 JCT（ジャンクション）を左折します。堤ランプで降り、国道 202 号線（福岡外環状道路）を 2kmほど直進して福大トンネル出入口手前から右折し、福岡大学病院東口交差点を右に入ります。

福岡大学大学院

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

電話 (092) 871-6631
 大学院事務課 内線 2913~2916